創樹 83

2022年7月20日発行

創樹会 SOUJYUKAI

【事務局長挨拶】地域貢献活動の芽

私たちの仕事は福祉サービスの提供が主な業務ですが、その他にも社会福祉事業を営む法人として地域の福祉ニーズ等を踏まえつつ、法人の自主性・創意工夫による多様な地域貢献が求められております。そして、その状況は社会福祉法人の財務諸表等電子開示システムの地域における公益的な取組みとして情報公開しています。創樹会では、地域の皆様への感謝も込めて水呑町内の清掃や送迎サービス、行事への参加などで協力をさせて頂いております。福祉サービス提供の対象者は、行政や医師による認定が必要ですが、地域貢献の対象者は法人の自主性に委ねられています。子育て相談や社会的孤立を解消する居場所づくりなどもこれに該当します。困りごとを抱えながら生活されている方々の課題の解消に、社会福祉法人の資源がお役にたてることがあれば、とても嬉しいことです。とはいうものの、この地域貢献に力を注ぐためには、マンパワーが必要です。昨今は多くの職場がそうであるように、職員が働きやすい環境を整えるため、有給休暇は定められた日数以上を取得し、男女とも育児や介護と仕事の両立を支援し、過重労働を避けて職員の健康にも配慮します。そのため余裕ある人員体制を整えることは重要課題なのです。

創樹会のサービスは、障がいのある利用者さんの暮らしを支えることです。職員は、利用者さんの「食事・運動・睡眠」の生活リズムを整えることの知識と経験を持っています。この生活リズムを整えることは、私たちが心の健康を維持する上で最も大切な事だと言われています。「なぜ、心の健康が崩れてしまうのか？予防するためにはどうしたらいいのか？」という疑問を持ち続けていましたが、日々利用者さんの暮らしを支える職員からその大切さを学びました。また、そのこと（体を整える事は心を整える事）を知ることで少しでも何かに役立てて欲しいと思う職員の存在もありました。今はまだ小さな発見にすぎませんが、職員の持つスキルが心の健康の維持に寄与できるのではないかと思っています。小さな発見は、まるで種から出てきた小さな芽のようですが、「福祉の樹を創る」という法人名の由来のように、いつか樹になる日が来ることを願っています。

社会福祉法人 創樹会 事務局長　山本 由紀子

ぷちえぇね

職員インタビュー

ONE-すてっぷ／多賀 有紗

入職前の不安

大学生の時、発達障害学会のお手伝いをする機会があり、その時に職員の方々の雰囲気がとても良かったのを覚えています。また、放課後等デイサービスでアルバイトをした際、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援をされている姿や職員同士で相談・連携しながらチームとして支援を行う環境に魅力を感じ、入職を決めました。不安はありましたが、子どもたちと関われる楽しみの方が大きかったです。

入ってからの指導体制

初めは分からないことも多く、試行錯誤の毎日でした。しかし、先輩職員方が優しく丁寧に教えてくださるので一人で悩むことはなく、少しずつ全体を見ながら動けるようになってきたと感じます。子どもたちと体を動かしながら一緒に楽しもう！という気持ちを大切にしていました。

仕事のやりがい

子ども達が様々なことに取り組む中で、諦めずに頑張る姿、できることが増えていく姿をたくさん見てきました。一緒に喜んだり、子どもたちの成長を感じられた時にはとてもやりがいを感じます。〝この職員と一緒に遊びたい〟〝頑張ったこと・できたことを伝えたい〟と思ってもらえるよう、日頃から子どもたちの気持ちを受け止め、信頼関係を築いていきたいと思います。

これから挑戦したいこと

子どもたちの行動を表面的に捉えるのではなく、行動の理由や行動の裏にある気持ちを考え、一人ひとりに合った適切な支援ができるようになりたいです。そのために、さらに理解や知識を深め、様々なことに挑戦し学ぶ姿勢を大切にしていきたいと思います。

ありがとうございました

2022年4月1日～2022年6月30日

＊お名前・グループ名のみ紹介し、お礼にかえさせていただきます。（敬称略・順不同）
＊保護者・職員については記載していませんので、ご了承ください。

ご寄贈・ボランティア訪問

ご寄贈　関係者1名

実習生

保育士	5月30日～10日間	福山平成大学	2名
	6月10日～10日間	比治山大学短期大学	3名
	6月20日～10日間	比治山大学短期大学	2名

今後の予定

コロナウイルス蔓延防止のため、
各行事開催が未定となっております。

あとがき

前号より誌面をリニューアル。学園利用者さんの作品をあしらい、文字も読みやすくなるよう心がけましたが、いかがだったでしょうか。おさまり始めたコロナ禍へは慎重に対処しつつ、楽しい暮らしをつくれるよう、あらためて努めてまいります。（編集スタッフ一同）

■表紙作品：内海 卓雄　■題字：田中 盧雪
■誌面イラスト/人形：内海 卓雄、佐々木 和徳、藤井 正彦
■誌面文字：内海 卓雄、藤井 恵子

事業所一覧
●福山六方学園（障害児入所施設）（障害児短期入所事業）（日中一時支援事業）
●あゆみ苑成人寮（障害者支援施設）（生活介護事業）（短期入所事業）（日中一時支援事業）
●サポートセンターひびきの家（共同生活援助事業）
●サポートセンター友の家（共同生活援助事業）
●サポートセンターかなで（日中サービス支援型共同生活援助事業）（短期入所事業）
●さわらび（生活介護事業）
●ヘルパーステーションあしすと（居宅介護・行動援護事業）（移動支援事業）
●ONE-すてっぷ（児童発達支援事業）（放課後等デイサービス事業）（日中一時支援事業）（障がい児療育等支援事業）
●ふぁんたす（放課後等デイサービス事業）
●相談支援センター風ぐるま（一般相談支援事業）（特定相談支援事業）（障がい児相談支援事業）
●さくら（就労継続支援B型事業）（生活介護事業）

発行日：2022年7月20日
発行元：社会福祉法人 創樹会　〒720-0832 広島県福山市水呑町7187番地1
TEL：084-956-0255 FAX：084-956-5749
fukuyamaroppou@soujukai-fukuroku.or.jp http://soujukai-fukuroku.or.jp
創樹会 webサイト▶

令和3年度 決算報告

法人単位　資金収支計算書

第一号第一様式

自　令和　3　年　4　月　1　日　至　令和　4　年　3　月　31　日

（単位：千円）

勘定科目			予算（A）	決算（B）	差異（A）－（B）	備考
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	53,992	58,922	-4,930	
		就労支援事業収入	9,890	9,060	830	
		障害福祉サービス等事業収入	1,208,586	1,207,667	919	
		経常経費寄附金収入	5,484	5,334	150	
		受取利息配当金収入	2	7	-5	
		その他の収入	15,803	15,947	-144	
		事業活動収入計（1）	1,293,757	1,296,937	-3,180	
	支出	人件費支出	959,179	957,042	2,137	
		事業費支出	88,860	89,525	-665	
		事務費支出	117,853	116,215	1,638	
		就労支援事業支出	9,561	9,566	-5	
		支払利息支出	1,371	1,373	-2	
		その他の支出	8,701	6,693	2,008	
		事業活動支出計（2）	1,185,525	1,180,414	5,111	
	事業活動資金収支差額（3）＝（1）－（2）		108,232	116,523	-8,291	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	6,774	6,774	0	
		施設整備等収入計（4）	6,774	6,774	0	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	23,944	23,944	0	
		固定資産取得支出	17,010	16,807	203	
		ファイナンス・リース債務の返済支出	588	591	-3	
		施設整備等支出計（5）	41,542	41,342	200	
	施設整備等資金収支差額（6）＝（4）－（5）		-34,768	-34,568	-200	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	3,257	3,274	-17	
		その他の活動収入計（7）	3,257	3,274	-17	
	支出	積立資産支出	5,128	65,138	-60,010	
		その他の活動による支出	0	15	-15	
		その他の活動支出計（8）	5,128	65,153	-60,025	
	その他の活動資金収支差額（9）＝（7）－（8）		-1,871	-61,879	60,008	
予備費支出（10）			0		0	
当期資金収支差額合計（11）＝（3）＋（6）＋（9）－（10）			71,593	20,076	51,517	

前期末支払資金残高（12）	475,580	475,580	0
当期末支払資金残高（11）＋（12）	547,173	495,657	51,517

法人単位　事業活動計算書

第二号第一様式

自　令和　3　年　4　月　1　日　至　令和　4　年　3　月　31　日

（単位：千円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減
サービス活動増減の部	収益	児童福祉事業収益	58,922	53,273	5,649
		就労支援事業収益	9,060	8,879	181
		障害福祉サービス等事業収益	1,207,667	1,181,966	25,701
		経常経費寄附金収益	5,334	2,227	3,107
		その他の収益	7,010	3,685	3,325
		サービス活動収益計（1）	1,287,994	1,250,031	37,963
	費用	人件費	963,504	927,234	36,270
		事業費	90,621	85,204	5,417
		事務費	116,215	133,079	-16,864
		就労支援事業費用	9,566	9,108	458
		減価償却費	68,230	70,016	-1,786
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-20,198	-19,326	-872
		その他の費用	2,881	2,342	539
		サービス活動費用計（2）	1,230,819	1,207,657	23,161
	サービス活動増減差額（3）＝（1）－（2）		57,175	42,374	14,801
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	7	19	-12
		その他のサービス活動外収益	12,211	11,365	846
		サービス活動外収益計（4）	12,218	11,384	833
	費用	支払利息	1,373	1,506	-134
		その他のサービス活動外費用	3,812	4,003	-191
		サービス活動外費用計（5）	5,185	5,510	-325
	サービス活動外増減差額（6）＝（4）－（5）		7,033	5,875	1,159
経常増減差額（7）＝（3）＋（6）			64,208	48,248	15,960
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	6,774	13,175	-6,401
		固定資産受贈額	472	22,037	-21,566
		その他の特別収益	8,144	1,419	6,725
		特別収益計（8）	15,390	36,631	-21,241
	費用	基本金組入額	0	21,616	-21,616
		固定資産売却損・処分損	59	0	59
		国庫補助金等特別積立金積立額	6,774	13,175	-6,401
		その他の特別損失	26	0	26
		特別費用計（9）	6,859	34,791	-27,932
	特別増減差額（10）＝（8）－（9）		8,531	1,840	6,691
当期活動増減差額（11）＝（7）＋（10）			72,739	50,088	22,651
繰越活動増減の部	前期繰越活動増減差額（12）		629,791	615,318	14,472
	当期末繰越活動増減差額（13）＝（11）＋（12）		702,530	665,407	37,123
	基本金取崩額（14）		0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）		0	0	0
	その他の積立金積立額（16）		60,003	35,616	24,387
	次期繰越活動増減差額（17）＝（13）＋（14）＋（15）－（16）		642,527	629,791	12,736

法人単位　貸借対照表

第三号第一様式

令和　4　年　3　月　31　日　現在

（単位：千円）

資産の部 科目	当年度末	前年度末	増減	負債の部 科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	575,474	551,118	24,356	流動負債	163,329	162,526	803
現金預金	379,351	358,180	21,171	事業未払金	66,978	63,868	3,110
事業未収金	193,261	190,804	2,457	1年以内返済予定設備資金借入金	23,944	23,944	0
貯蔵品	760	0	760	1年以内返済予定リース債務	591	591	0
立替金	176	278	-102	預り金	465	43	422
前払費用	1,916	1,856	60	職員預り金	10,621	10,019	603
仮払金	10	0	10	仮受金	166	81	85
固定資産	1,385,478	1,372,390	13,088	賞与引当金	60,564	63,980	-3,416
基本財産	901,485	924,016	-22,532	固定負債	303,636	326,311	-22,675
土地	261,340	261,340	0	設備資金借入金	250,159	274,103	-23,944
建物	640,144	662,676	-22,532	リース債務	1,182	1,773	-591
その他の固定資産	483,994	448,374	35,620	退職給付引当金	52,295	50,435	1,860
建物	132,794	162,942	-30,148	負債の部合計	466,966	488,837	-21,872
構築物	3,827	3,649	177	純資産の部			
機械及び装置	6,259	6,813	-554	基本金	253,381	253,381	0
車輌運搬具	7,717	4,364	3,354	1号基本金	253,381	253,381	0
器具及び備品	13,145	15,073	-1,928	国庫補助金等特別積立金	344,244	357,667	-13,424
有形リース資産	1,773	2,364	-591	その他の積立金	253,835	193,832	60,003
権利	1,409	1,554	-145	修繕費積立金	47,567	47,566	1
ソフトウェア	6,283	1,551	4,732	備品等購入積立金	19,035	19,035	0
退職給付引当資産	52,295	50,435	1,860	施設整備積立金	186,133	126,131	60,002
修繕費積立資産	47,567	47,566	1	工賃変動積立金	1,100	1,100	0
備品等購入積立資産	19,035	19,035	0	次期繰越活動増減差額	642,527	629,791	12,736
施設整備積立資産	186,133	126,131	60,002	（うち当期活動増減差額）	72,739	50,088	22,651
工賃変動積立資産	1,100	1,100	0				
差入保証金	1,740	1,725	15				
長期前払費用	2,901	4,057	-1,156				
その他の固定資産	14	14	0	純資産の部合計	1,493,987	1,434,671	59,315
資産の部合計	1,960,952	1,923,509	37,444	負債及び純資産の部合計	1,960,952	1,923,509	37,444

鞆の津ミュージアム 開館10周年

鞆の浦にある築150年の蔵を再生。館内休憩室は地域にも開放し、学園利用者さんや地元の子供たちが創作するなど自由にすごせる空間になっています。

鞆の津ミュージアムは、5月26日をもって開館10周年を迎えました。これまでご協力いただいた方々に、心より感謝申し上げます。

当館ではこれまで、障害の有無や知名度、職業的作家かアマかなど作者の境遇・立場にかかわらず、様々な人たちの人生にねざした作品を展覧会でお伝えしてきました。展示に際しては必ず、作者ご本人や親御さん／支援者に話をお聞きするようにしているのですが、そこからみえてきたのは、創作することが作者にとってはなくてはならない楽しみを与えてくれる心のよりどころであること、ときには、孤独や退屈感や死への恐怖といった苦悩を忘れさせてくれるセルフケアでもあること、そして、表現は作者がよりよく生きようとする思いと分かちがたく結びついているということです。

作品は、極論すれば「物」にすぎませんが、作者の特性や価値観や暮らしと切っても切り離せません。〈福祉〉という言葉は、もともと語源的に「幸せ」とか「よく生きる」という意味を持つといわれます。そのこともふまえて私は、作者それぞれの私的な幸せのかたちを具現化した「作品」という不思議な物を伝える鞆の津ミュージアムの活動もまた、ひとつの「福祉」的な営みだと思うようになりました。表現物の展示を通じて、人それぞれ異なる「ふつう」を可視化し、私たちそれぞれが他をもって代えがたい固有な存在であると実感できる空間をつくること。様々な人たちが共に生きていきやすい世の中に向け、これからもそのような活動を続けていければと思います。（津口 在五）

『私物の在処』展(2020・写真左)では、他人には何の変哲もない物なのに、持ち主にとっては他に代えがたく捨てるに捨てられないような私物を展示。『原子の現場』展(2017・写真右)では、被爆者による原爆の絵を含め、戦争をめぐる様々な表現を展示しました。このように企画展では様々な視点から、私たちは固有な存在なのだと感じられる空間をつくるとともに、図録も発行することで、当館の活動を広く知っていただけるよう試みています。

鞆の津ミュージアム

住　　所｜〒720-02101 福山市鞆町鞆271-1
開館時間｜10:00-17:00(月火休館)入場無料
電話番号｜084-970-5380
Webサイト｜https://abtm.jp

令和4年度 各事業所の主な事業計画

福山六方学園

昨年度は、多くのイベントが中止もしくは縮小して行うことになりました。今年度は出来る限り開催したいと考えています。それぞれのイベントを職員が提供するだけでなく、自治会活動を強化し、子ども達の意見を取り入れた子ども達が楽しめるイベントの開催をめざします。

あゆみ苑成人寮

利用されている皆さんの高齢化と障がいの重度化にともない、医療対象者も急増しています。このような方々の日常生活における介護、医療、保健等の支援の充実を図ります。又、障がい特性の多様化が進み、強度行動障害を含む自閉傾向の強い方や精神に障がいのある方も多く、障がいの特性に配慮した環境作りと支援を行います。

サポートセンター ひびきの家

事業所全体として利用者の方の介護度が上がり、支援量が増えています。高齢期の方の心身の特徴を理解・把握し、適切な支援を心掛けていきます。行動障がいの方の特徴を理解し、生活の充実に努めていきます。感染症対策を行い、安心・安全な地域生活の維持を目指します。

サポートセンター かなで

日中をグループホームで過ごされる方や生活介護事業の利用が難しい方の対応を行ない、活動の幅を広げ、生活の充実を目指します。それぞれの方の障がい特性の理解・把握に努め、個別の対応をして生活の安定を図ります。感染症対策を行い、安心・安全な地域生活の維持を目指します。

さわらび

日中一時支援事業を令和3年度末付けで廃止し、生活介護事業（定員40名）に一本化します。利用される皆さんも歳を重ねられ、介護度の高い方が多くなってきた反面、自閉症、強度行動障がいのある方の利用が複数ある等、様々な障がいのある方の利用があります。それぞれの特性に応じた質の高いサービスの提供ができるよう、スタッフ間で連携・情報共有をしていきます。

ヘルパーステーション あしすと

スタッフの数が少なくなることを利点として、小さな会議を重ねています。各家庭での生活環境が大きく変わってきている状況があり、多様なニーズや現在の状況に合わせた対応を迅速に行える準備を整えています。情報を集めて、今できる可能な支援を提供できるように進めます。

ONE-すてっぷ

児童発達支援すてっぷでは、毎年利用児を新たに募る事業であるため、行政機関、保育所関係、児童発達支援センター等との連携を積極的に行い、顔の見える連携作りを進めます。
放課後等デイサービスONE-すてっぷでは、強度行動障害支援者養成研修修了者を中心にケース検討を行い、統一した方向性での支援ができるよう取り組みます。

ふぁんたす

新型コロナウイルスが収束しない状況下であっても、子ども達の健全な育成に必要な意義ある活動が提供できるよう努めます。併せて、感染拡大防止のための休業や欠席時における在宅支援（テレビ電話による支援プログラム）の充実に取り組みます。

相談支援センター 風ぐるま

サービス利用の調整や生活状況の見守りを中心とした計画相談と生活上の悩みや不安、生活に必要な支援に対応していく基本相談を中心に業務を行っていきます。ご本人ご家族の高齢化に伴う生活変化や、通学不安や不登校が増加傾向にある児童相談への対応として関係機関や学校などの教育機関との連携を行っていきます。

さくら

利用者の障がいの重度化・高齢化や、障がいの多様化による個別支援対応が多くなり、作業量の低下が想定されるため、安定した作業工賃の支給が行えるように、取引企業とのさらなる連携を行いながら、作業内容の充実化を目指します。

事務局

建設後10年以上経過した建物や器具の改修計画を進めます。自然災害や感染症の発生時は、法人内外への情報発信と対応が求められるため、日頃より医務給食部門とも連携し、訓練を重ねます。

以上の活動を通して、引き続き**「障がいのある人たちの人生を支える」**を旨とした**「嬉しいサービス」**提供事業体として法人関係者が一丸となって精進していきます。

令和3年度 各事業所の主な事業報告

福山六方学園

令和3年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受ける1年となりました。そんな中、親子の関りを第一と考え、出来る限り帰省、面会を行いました。これも帰省をしてもご自宅で過ごすなどご家族のご理解ご協力があったからこそ実現できたことと感謝しております。

あゆみ苑成人寮

今年度も新型コロナウイルスの猛威と向き合う1年でした。あゆみ苑成人寮では、利用されている皆さんの高齢化にともない、感染予防対策に細心の注意を払い、施設に「持ち込まない」の徹底を図りました。それに伴い、短期入所・日中一時の受入を中止し地域生活をされている皆様方には大変ご迷惑をお掛けしました。

サポートセンター ひびきの家

新入居者や長期入院利用者の退院で、定員を満たすことができました。清水基金の助成金を受け、車椅子対応の自動車を白萩地区のホームに配置しました。新型コロナウイルス関連で、行事は形や規模を変えて実施しました。帰省・面会・通所の制限等により、精神面の不安定さが現れた利用者が見られました。

サポートセンター かなで

通所が難しい方に対して、自立支援課題やグループホーム外での活動を提供し、生活の充実に努めました。新型コロナウイルス関連で、帰省の制限や通所の中止等が繰り返しありました。利用者の方のストレス解消のため、日々の生活の中で楽しみを作り出すよう心掛けました。利用者の方の暮らしにくさの軽減のため、支援の見直しや医療相談を行ないました。

さわらび

新型コロナウイルスの影響が大きく、感染拡大防止の観点から、やむをえず数日閉所することがあり、利用される皆さん、ご家族、関係事業所にはずいぶんご迷惑をお掛けしました。利用される皆さんのストレスも考慮しながら、可能な範囲での行事、外出等の日課を検討し、実施しました。

ヘルパーステーション あしすと

新型コロナウイルスだけでなく、人事異動や事務所移転など、利用される方々に負担をかけることになりました。今できる支援について、利用される方と共に考えて、会えないままの方に会う機会を作るように模索し続け、昨年より多くのご家庭を訪問しました。

ONE-すてっぷ

児童発達支援すてっぷでは、イメージ通り遊べるからだ作り、基本的生活習慣を身に付けること、遊びを通して生活経験を拡げること等に取り組みました。
放課後等デイサービスONE-すてっぷでは、通常の受入と併せて、生活リズムの維持等を目的に、平日午前中より不登校児の受入態勢も整えました。

ふぁんたす

新型コロナウイルス拡大防止のための休業や欠席時における在宅支援（テレビ電話による支援プログラム等）を実施しました。事業所に通えない時でも、心身の状況の確認、オンラインでの活動提供を行うこと等に取り組みました。

相談支援センター 風ぐるま

令和3年度も、新型コロナウイルスへの対応として電話でのモニタリングを中心に、必要な訪問や面談、支援などの相談業務を行いました。サービス利用についても、通常利用していた短期入所や居宅サービスでの外出などにも制限があり、ご本人・ご家族ともに不安を感じることが多くなりました。

さくら

就労B型の平均工賃月額は20,980円で、前年度比約13.3％の増額となりました。要因は、自動定量機を導入し生産性が向上した事と、取引企業のご理解・ご協力による受注量の増加です。生活介護の平均工賃月額は9,917円で、前年度比1.2％減額となりました。要因としては、新型コロナウイルスの影響でイベントによる収入が見込めなかったことがあげられます。

事務局

法人内のWi-Fi環境整備によりWeb会議の促進に繋がりました。また、感染症に関する発生情報を速やかに事業所間で共有することにより職員間の接触を避け、リスクの低減に努めました。人材確保が厳しいなか、令和4年度新規採用者8名を迎えることができました。

ふぁんたす　てんぐりかっぱ

『てんぐりかっぱ』は、千田町にある山の中の遊び場です。自然を利用したブランコやトランポリン、ソリ滑り等街中にはない珍しい遊具で遊べるのが魅力です。普段はコロナ禍の外出自粛ムードと相まって、家でゲームや動画中心のデジタル世界で一人遊びが多い子どもたち。たまには外で体を動かして友だちと関わりながら遊んでほしいという保護者とスタッフの願いもあって、毎年春休みに遊びに行かせてもらっています。

今年も3月上旬から「てんぐりかっぱ、いつ行くん?」と期待を込めて聞いてくれていた子どもたち。楽しみにしていただけあって、当日は、ソリを片手に山道を何度も上り下りしたり、大きなトランポリンにダイブしたりと全身で遊びを楽しんでくれました。落ち葉にまみれながら弾ける笑顔で遊ぶ子どもたちの姿に、すごくホッとすると共に嬉しくなり、疲れも吹き飛んでいく様に感じました!

ふぁんたす　田中 順子

あゆみ苑成人寮男子棟　お食事会

5月10日と24日に、あゆみ苑成人寮の男子棟利用者さんで食事会を行いました。池口精肉店とステーキ都で和牛弁当を注文し、三密に配慮しつつの実施となりました。外食自粛が続く中ということもあり、皆さん久しぶりのお店のお食事や、皆で集まって過ごす時間を楽しまれていました。

コロナ禍により様々な生活様式に変化が生じましたが、あゆみ苑での生活が楽しいものになるように、イベントも上手に形を変えながら実施していけたらと思います。

あゆみ苑成人寮男子棟　浦田 創太朗

マナー研修

新任研修の一つにマナー研修があり、基本知識を座学と実技で学んでいます。今年も昨年に引き続き、アイ・コミュニケーション代表の石井千恵様をお迎えし、六月二日に水呑交流館で講習をして頂きました。

事前に座学を受けていたので、実技をメインで行い、名刺交換や来客対応などを学び、参加職員からは、「練習をする機会がなかったので学べてよかった」「クレーム対応について知りたい」など次のステップへ意欲をかきたてられたようです。普段、名刺交換等する機会は少ないですが、今日のことを振り返り活かせればと思います。

事務局　岡崎 勇輝

学園の日々

さくら　お花見

今年は雨も少なく、風も穏やかで桜がとてもきれいに咲き乱れました。新型コロナウイルス感染症がまだ落ち着かない状況でしたが、感染対策を実施しながら『さくら』でもお花見を開催しました。どこか遠くへ出掛けることはまだ難しい状況ですが、近くの卸センターで満開の桜を見ながら散策し、事業所内でミニゲーム大会とカラオケ大会を行いました。カラオケでは自分たちの持ち歌を熱唱し、ミニゲームでは「だめだったぁ!」と悪戦苦闘しながらも「全部クリアできた!」と利用者の皆さんからは、たくさんの笑顔の花を見る事が出来ました。

さくら　荒木 郁海

さわらび　シャボン玉

さわらびの生活介護日課は、創作活動や歩行・ドライブなどです。創作活動では、季節に合わせた壁面工作を行い、6月は梅雨をイメージして紙皿を傘の形に切って色を塗ったり、色紙で紫陽花を作ったりして室内の飾りつけを皆さんと行っています。

今回掲載している写真は、さわらびの中庭でシャボン玉をする風景です。たくさん浮かぶきれいなシャボン玉を見て、皆さん嬉しそうにされています。日増しに気温が上がっていき、散歩に出ることが難しくなってくる中、朝の涼しい時間帯で短い時間でも外に出てリフレッシュできる日課を考え、楽しい毎日を過ごしていただけるよう取り組んでいきます。

さわらび　山口 慎平

サポートセンターかなで　自立にむけて

日中活動支援の一つとして、自立課題を行っています。生活空間から少し離れて、視覚的な情報が中心の空間で、見通しをもって安心してできる活動を目指しています。

アセスメントを行い、利用者の理解に合った自立課題が提供できるようにしています。どのような課題なのか、どこで終わりなのか、終わった後何があるのかなどを明確にすることで集中して自立課題に取り組むことができています。利用者の暮らしを豊かにする手段の一つとして今後も改善しながら取り組みたいと思います。

サポートセンターかなで　枝廣 正寛

スタッフのまなび

自主研修について

私は自主研修制度を積極的に活用しています。近年のコロナウイルスの影響により、Ｗｅｂ研修が増加したので自宅で以前より気軽に受講できるようになりました。また、配信期間を長めに設けてくれる研修もあり、いつでも見ることができるので、時間を有効に使いながら勉強ができるのがとてもいい環境だなと思います。

自主研修では、自分が学びたい内容から、受けたい研修を探して受講することができます。より内容を理解し、自分の知識を深めていくために、研修前に、研修を受ける目的を明確にしておくことを大切にしています。研修を通して、子どもの姿や行動を客観的に捉えることができ、学んだことを実践・振り返りしていくことで、自分自身の成長や子ども達との信頼関係の構築にも繋がっていると思います。これからも、研修を活用しながら様々な知識をつけ、支援に活かしていきたいです。

ＯＮＥ-すてっぷ　多賀 有紗